

6 調査を実施した学校・児童生徒数

	小学校（校）	児童（人）	中学校（校）	生徒（人）
全国（公立）	19,456	999,723	9,539	982,811
北海道（公立）	971	35,802	559	37,265
帯広市	26	1,222	14	1,279

※表中の全国及び北海道（公立）の数値は、平成29年度全国学力・学習状況調査 調査結果のポイントについて～北海道（公立）における調査結果～より抜粋。

※ 表中の帯広市の数値は、回収した解答用紙が最も多かった科目の解答用紙で算出。

7 調査結果に関する留意事項

- ① 本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることに留意する必要がある。
- ② 本市全体の平均正答率については、平成26年度から数値で示しているが、細かい桁における微小な差異は実質的な違いを示すものではないと考えられることから、必ずしも、これらの数値のみで学力等の状況すべてを表すものではなく、結果については中央値、標準偏差等の数値や分布の状況を表すグラフの形状など、他の情報と合わせて総合的に分析・比較・評価する必要がある。
また、個々の設問や領域等に着目して学習指導上の課題を把握・分析し、児童生徒一人ひとりの学習改善や学習意欲の向上につなげることが重要である。
- ③ 平成29年度より、国が公表する都道府県の結果については、数値データによる単純な比較や序列化、過度な競争の助長を避けるためとして、整数値による公表となったが、本市においては可能な範囲で経年比較をするため、独自の計算方法により小数値を算出して公表することとした。

II 平成29年度 調査の結果

1 各科目の平均正答率

	小学校				中学校			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
全国	74.8	57.5	78.6	45.9	77.4	72.2	64.6	48.1
全道（札幌市を含む）	73.7	56.3	77.3	43.5	76.7	71.7	63.7	46.9
全道（札幌市を除く）	73.4	55.4	77.1	42.2	75.4	70.4	62.6	45.5
本市	73.4	55.3	76.5	42.1	75.7	71.4	63.9	47.5
全国差	-1.4	-2.2	-2.1	-3.8	-1.7	-0.8	-0.7	-0.6
全道差（札幌市を含む）	-0.3	-1.0	-0.8	-1.4	-1.0	-0.3	+0.2	+0.6
H28 全国差	-1.7	-1.2	-1.9	-3.0	-0.5	-2.0	+0.8	-0.9

※全道：（札幌市を含む・除く）いずれも北海道教育委員会が公表した小数値

※本市：国から提供されたデータをもとに独自に算出した小数値

2 本市の児童生徒の学力の状況の概観

【小学校】

- 平均正答率を独自の計算方法で算出して全国平均と比較すると、4科目ともに全国平均を下回っている。
- 昨年度と比較すると、3科目で全国平均との差がわずかに広がった。

【中学校】

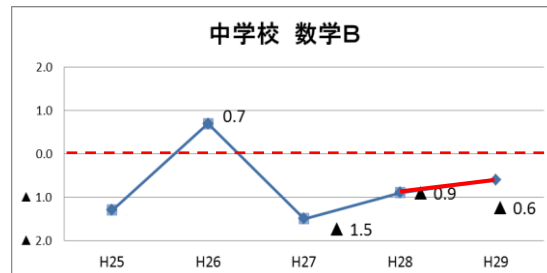
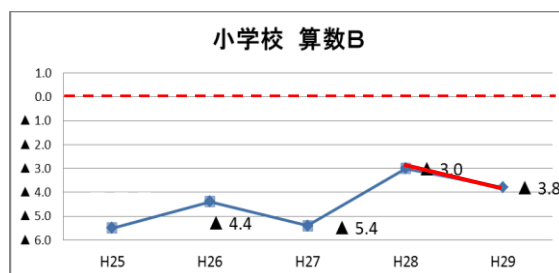
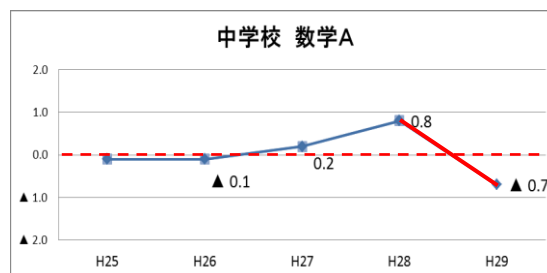
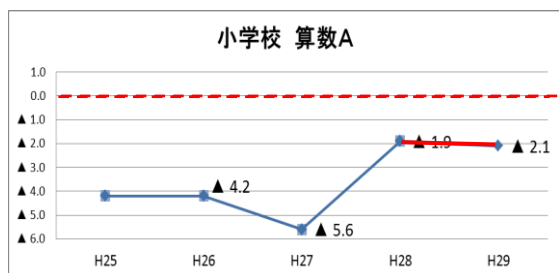
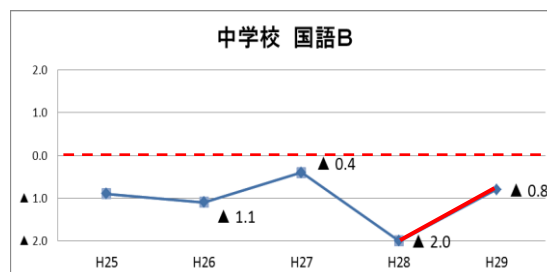
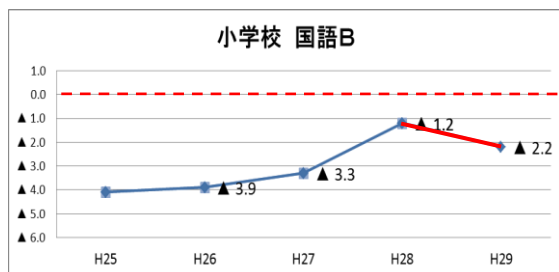
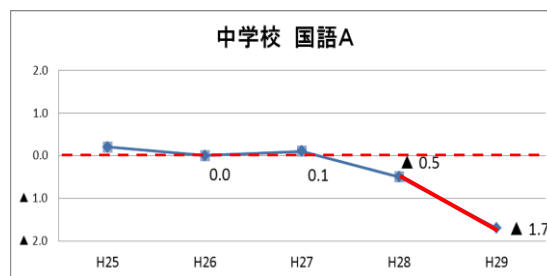
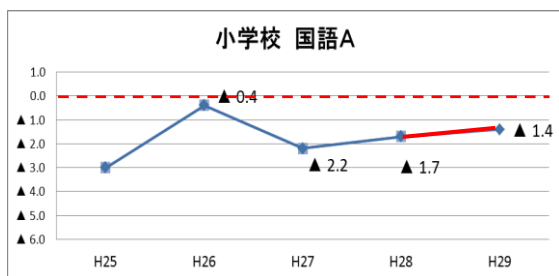
- 小学校と同様に独自の計算方法で算出して比較すると、4科目ともに全国平均を下回っている。
- 昨年度と比較すると、読解力や応用力等を問う国語B・数学Bにおいて全国平均との差が縮まり、改善の傾向が見られた。

(国語B: $-2.0 \rightarrow -0.8$ / 数学B: $-0.9 \rightarrow -0.6$)

☆現在の中学校3年生が小学校6年生の時(平成26年度)の全国平均との差を見ると、国語Aを除いて大幅に改善されている。

- 国語A $-0.4 \rightarrow -1.7$
- 国語B $-3.9 \rightarrow -0.8$
- 算数(数学)A $-4.2 \rightarrow -0.7$
- 算数(数学)B $-4.4 \rightarrow -0.6$

【全国と本市の平均正答率の差の推移】

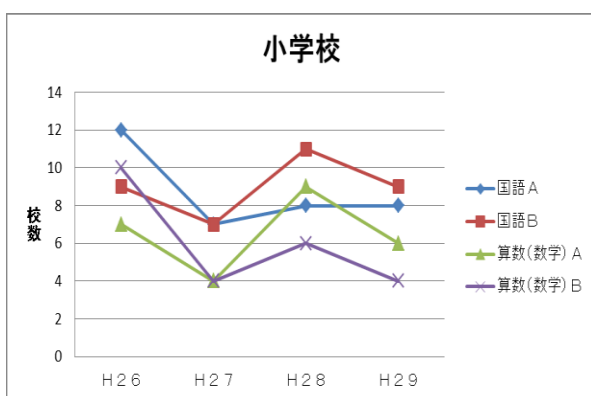


【市内小中学校における平均正答率の散らばり】

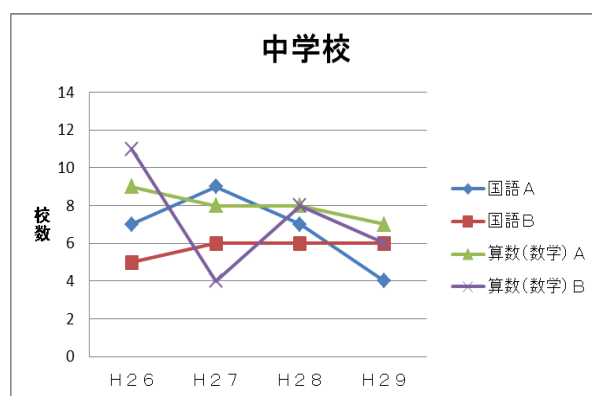
- 全国平均を上回った小学校は、国語Aを除き昨年度よりも減少している。
平均正答率が最も高かった学校と最も低かった学校の差は、小学校で17.8（算数A）～20.5（算数B）ポイントとなっている。
- 全国平均を上回った中学校は、国語Bを除き昨年度よりも減少している。
平均正答率が最も高かった学校と最も低かった学校の差は、中学校で15.4（国語A）～27.1（数学A）ポイントとなっている。
- 全道平均を5ポイント以上下回った小学校は、国語Aを除き昨年度より1～2校増加した。中学校では、国語Aと国語Bでそれぞれ1校増加し、数学Aと数学Bはそれぞれ1校減少した。

■ 全国平均を上回った（同等）校数の推移（校数）

	小学校				中学校			
	H26	H27	H28	H29	H26	H27	H28	H29
国語A	12	7	8	9	7	9	7	4
国語B	9	7	11	9	5	6	6	6
算数(数学)A	7	4	9	6	9	8	8	7
算数(数学)B	10	4	6	4	11	4	8	6



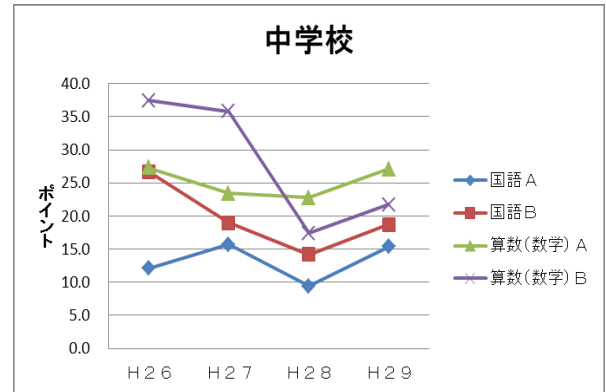
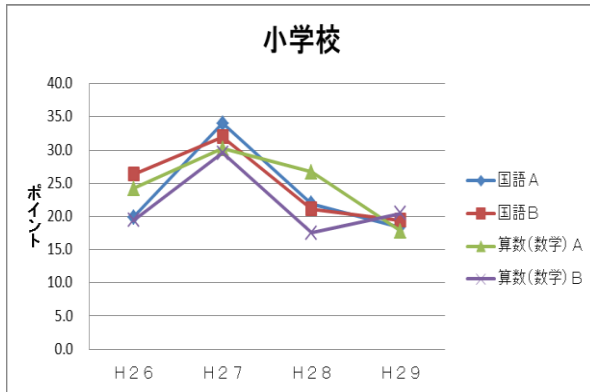
昨年度と比べて、国語Aで全国平均を上回った学校数が1校増加した。



昨年度と比べて、国語Bで全国平均を上回った学校数が同数だった。

■ 平均正答率が最も高かった学校と最も低かった学校の差の推移（ポイント）

	小学校				中学校			
	H26	H27	H28	H29	H26	H27	H28	H29
国語A	19.9	34.0	21.9	18.4	12.1	15.7	9.4	15.4
国語B	26.4	32.0	21.1	19.4	26.7	19.0	14.2	18.7
算数(数学)A	24.2	30.2	26.7	17.8	27.3	23.4	22.8	27.1
算数(数学)B	19.4	29.6	17.5	20.5	37.4	35.8	17.4	21.7

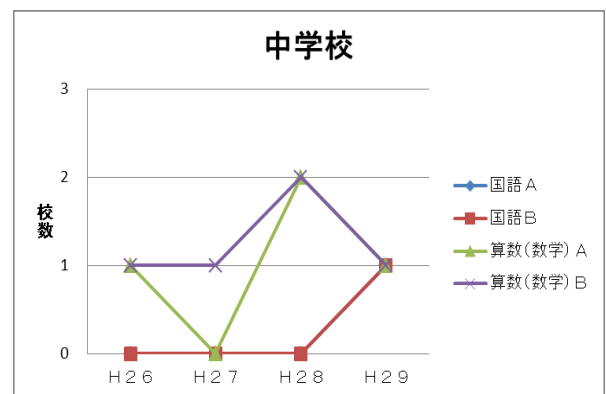
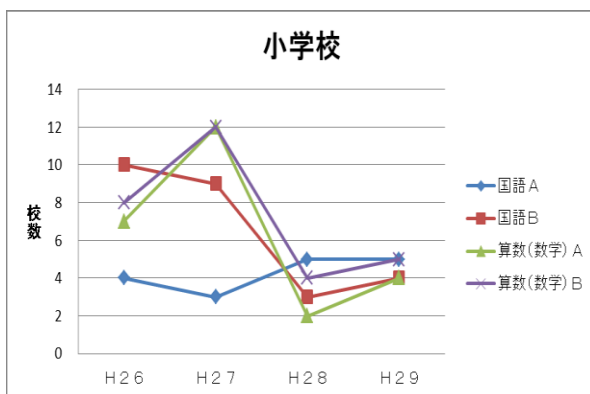


昨年度と比べて、国語A、国語B、算数Aの3教科で差が縮まった。

昨年度と比べて4科目全てで差が広がった。

■ 全道平均を5ポイント以上、下回った学校数の推移（校数）

	小学校				中学校			
	H26	H27	H28	H29	H26	H27	H28	H29
国語A	4	3	5	5	0	0	0	1
国語B	10	9	3	4	0	0	0	1
算数(数学)A	7	12	2	4	1	0	2	1
算数(数学)B	8	12	4	5	1	1	2	1



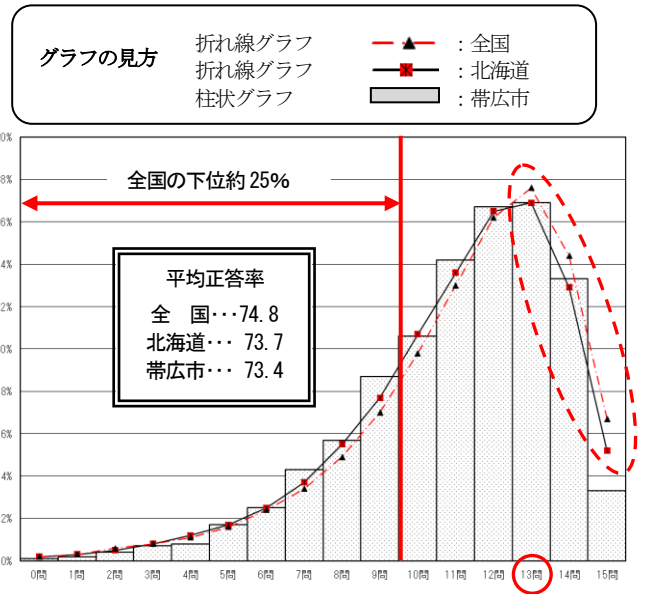
昨年度と比べて、4科目全てにおいて、学校数が増加した。

昨年度と比べて、国語A・Bにおいて、学校数が増加した。算数A・Bにおいては、該当校が減少した。

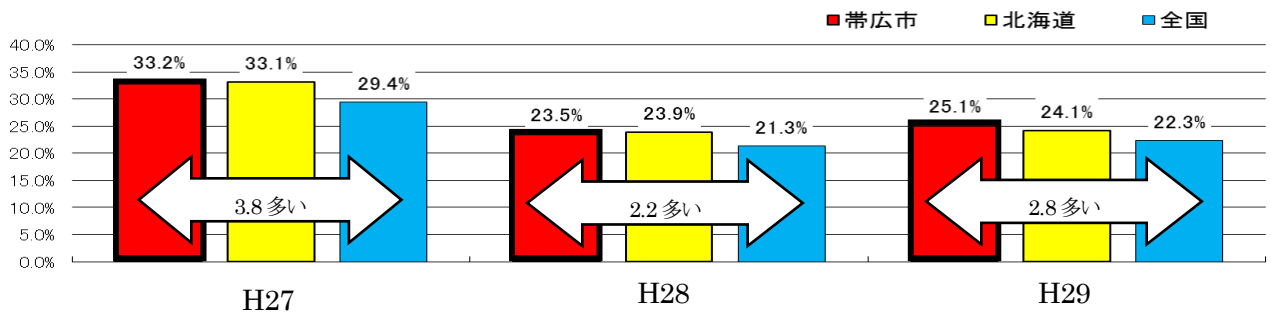
3 各科目の正答数の分布

【小学校 国語A】

- ・ 15問中、正解した児童数が最も多かったのは全国、北海道、帯広市ともに13問だった。
- ・ 全国と比べて15問中13問以上正解した上位層の割合に開きが見られた。

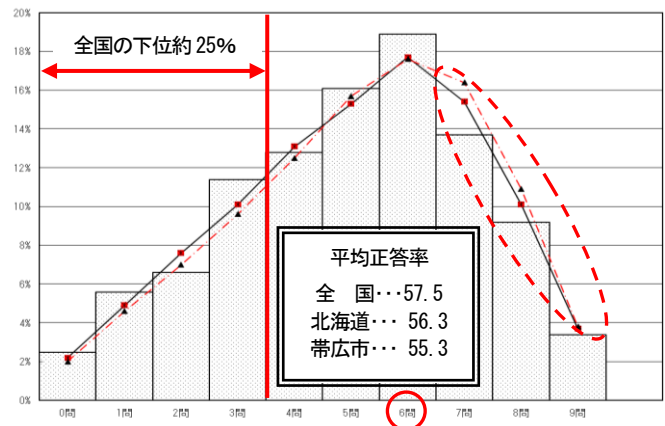


全国及び北海道の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

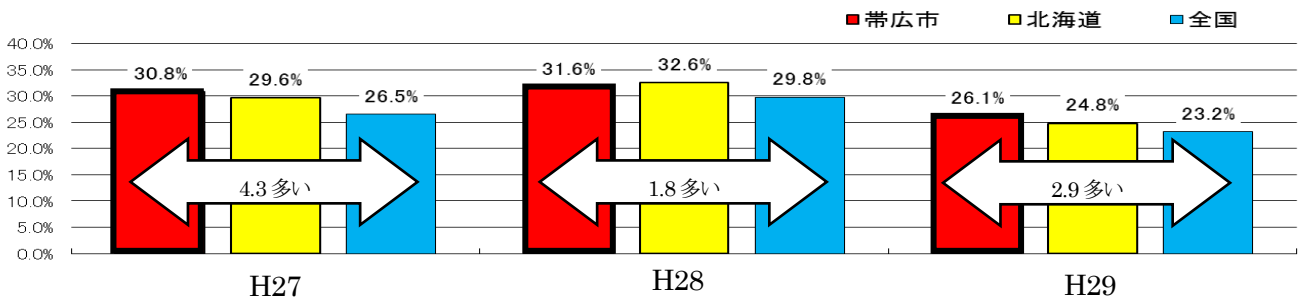


【小学校 国語B】

- ・ 9問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国、北海道、帯広市ともに6問だった。
- ・ 全国と比べて、9問中7以上正解した上位層の割合に、開きが見られた。

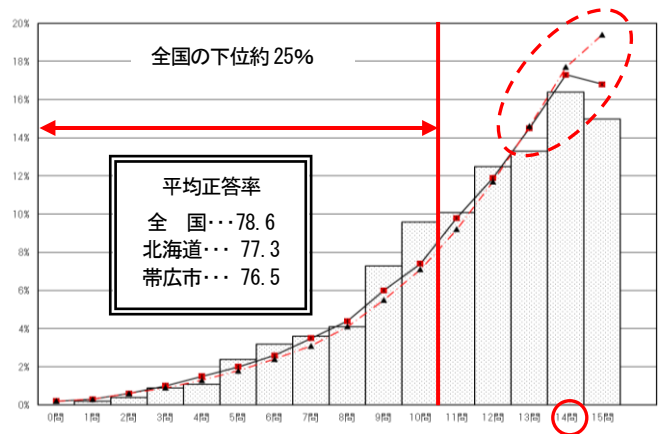


全国及び北海道の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

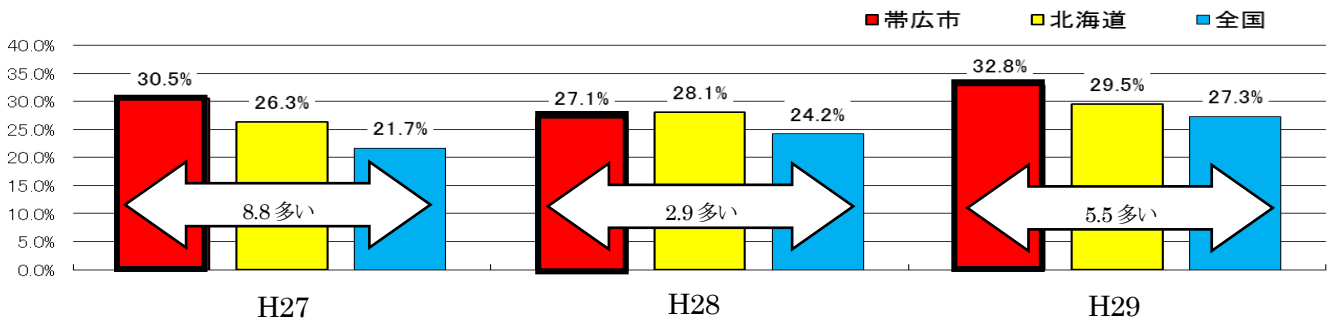


【小学校 算数A】

- ・ 15問中、正解した児童数が最も多かったのは、全国が15問、北海道と帯広市が14問だった。
- ・ 全国と比べて13問以上正解した上位層の割合に開きが見られた。

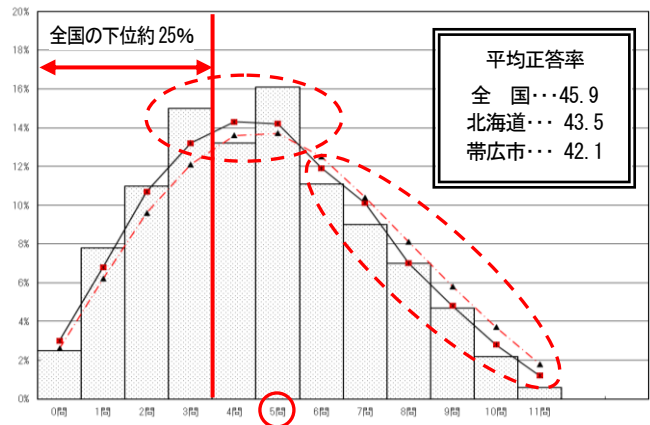


全国及び北海道の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

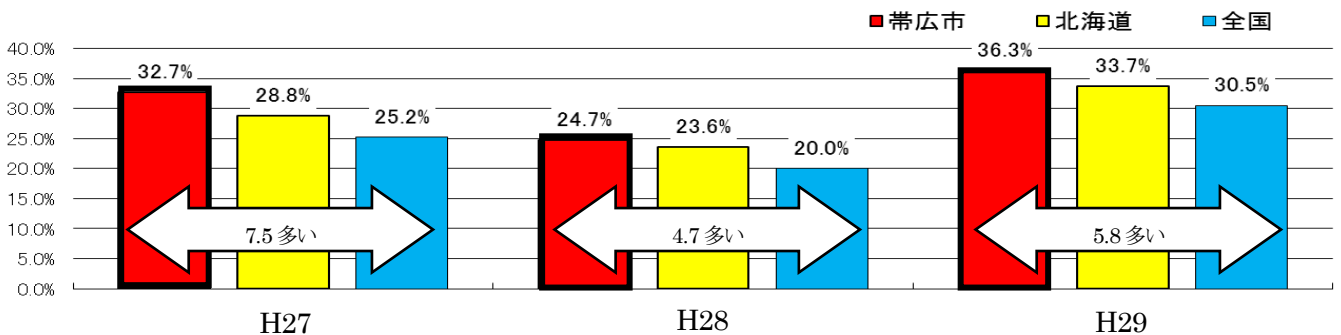


【小学校 算数B】

- ・ 11問中、正解した児童数が最も多かったのは全国と帯広市が5問、北海道が4問だった。
- ・ 児童数の割合が3問～5問までの間に集中している。
- ・ 全国と比べて6問以上正解した上位層の割合に開きが見られた。

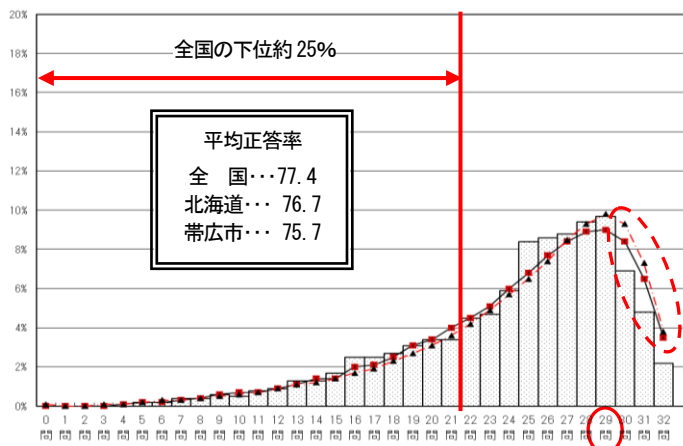


全国及び北海道の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

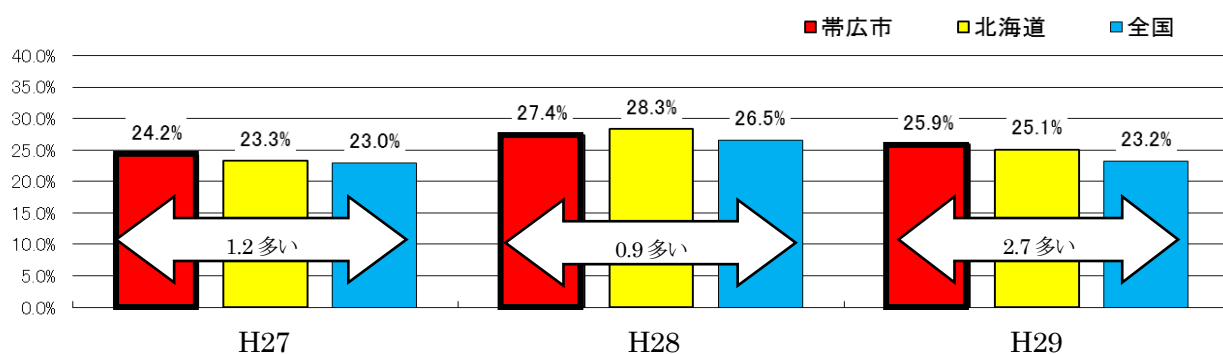


【中学校 国語A】

- ・ 32問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国、北海道、帯広市ともに29問だった。
- ・ 全国と比べて30問以上正解した上位層の割合に開きが見られた。

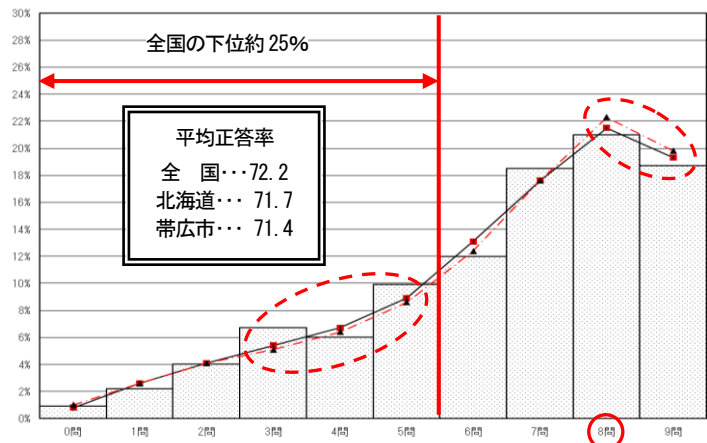


全国及び北海道の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

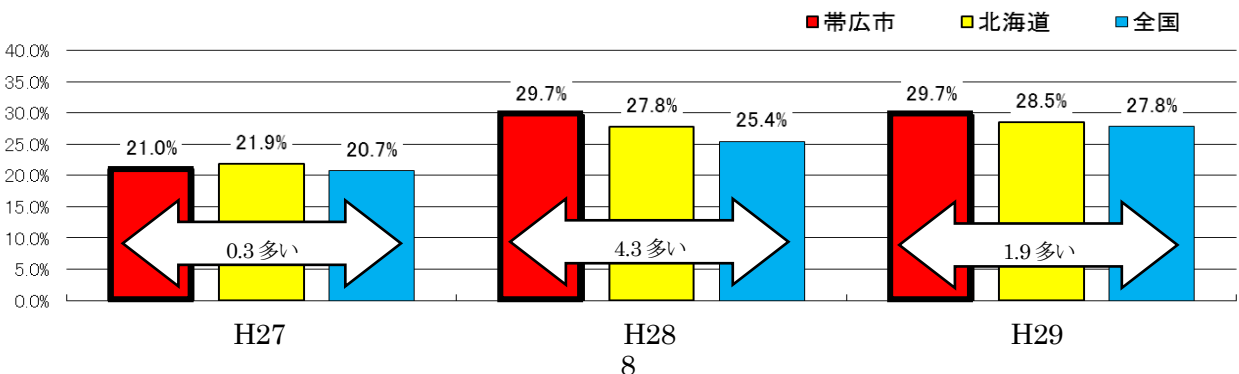


【中学校 国語B】

- ・ 9問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国、北海道、帯広市ともに8問だった。
- ・ 全国と比べて8問以上正解した上位層の割合に開きが見られた。
- ・ 昨年度と同様に下位層の割合が大きいですが、全国との差は開きが小さくなった。

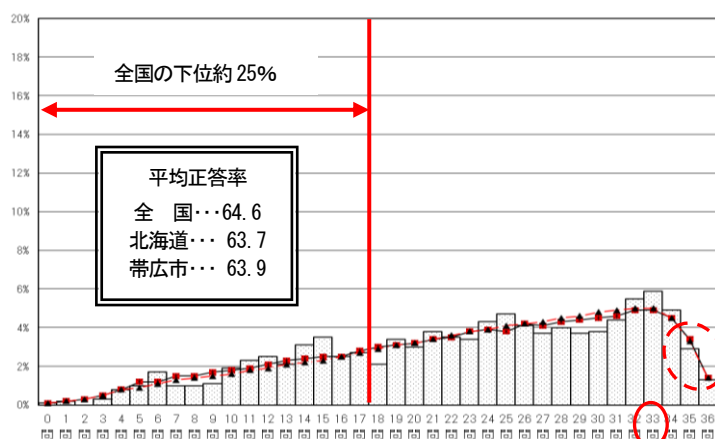


全国及び北海道の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

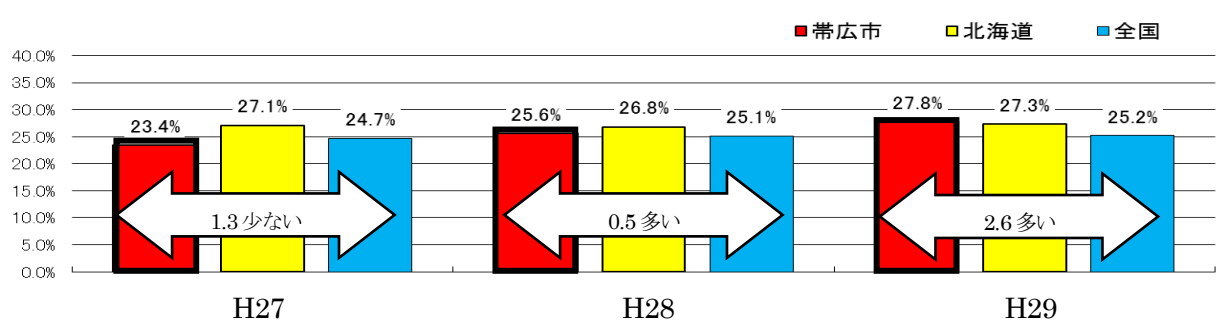


【中学校 数学A】

- ・ 36問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国と北海道が32～33問、帯広市が33問だった。
- ・ 全国とほぼ同様の傾向が見られたが、全国と比べて35問以上正解した上位層の割合に開きが見られた。

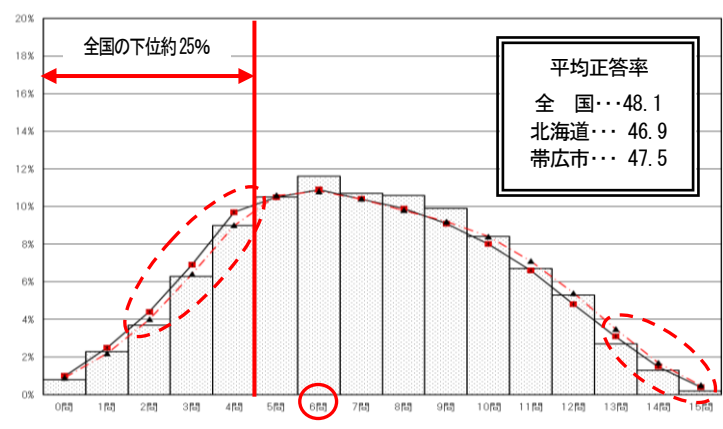


全国及び北海道の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

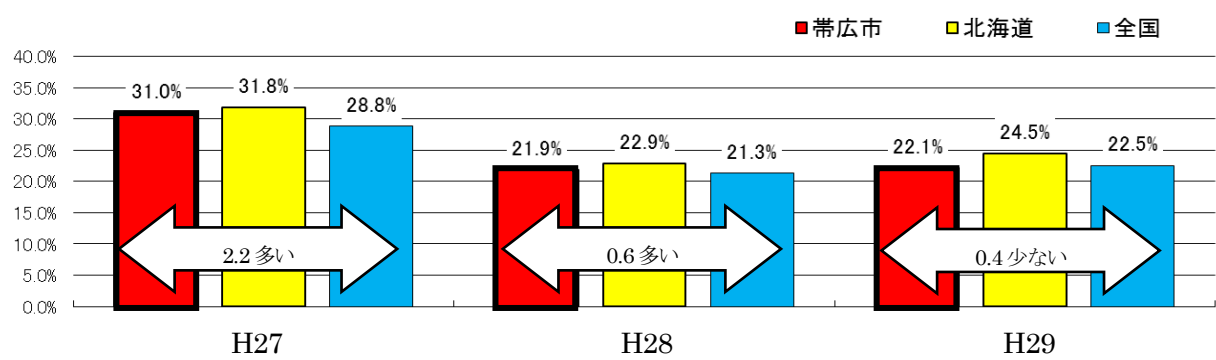


【中学校 数学B】

- ・ 15問中、正解した生徒数が最も多かったのは、全国、北海道と同様に6問だった。
- ・ 全国とほぼ同様の傾向が見られたが、全国と比べて13問以上正解した上位層の割合に開きが見られた。
- ・ 昨年度と同様に下位層の割合が大きいですが、全国との差は開きが小さくなりました。

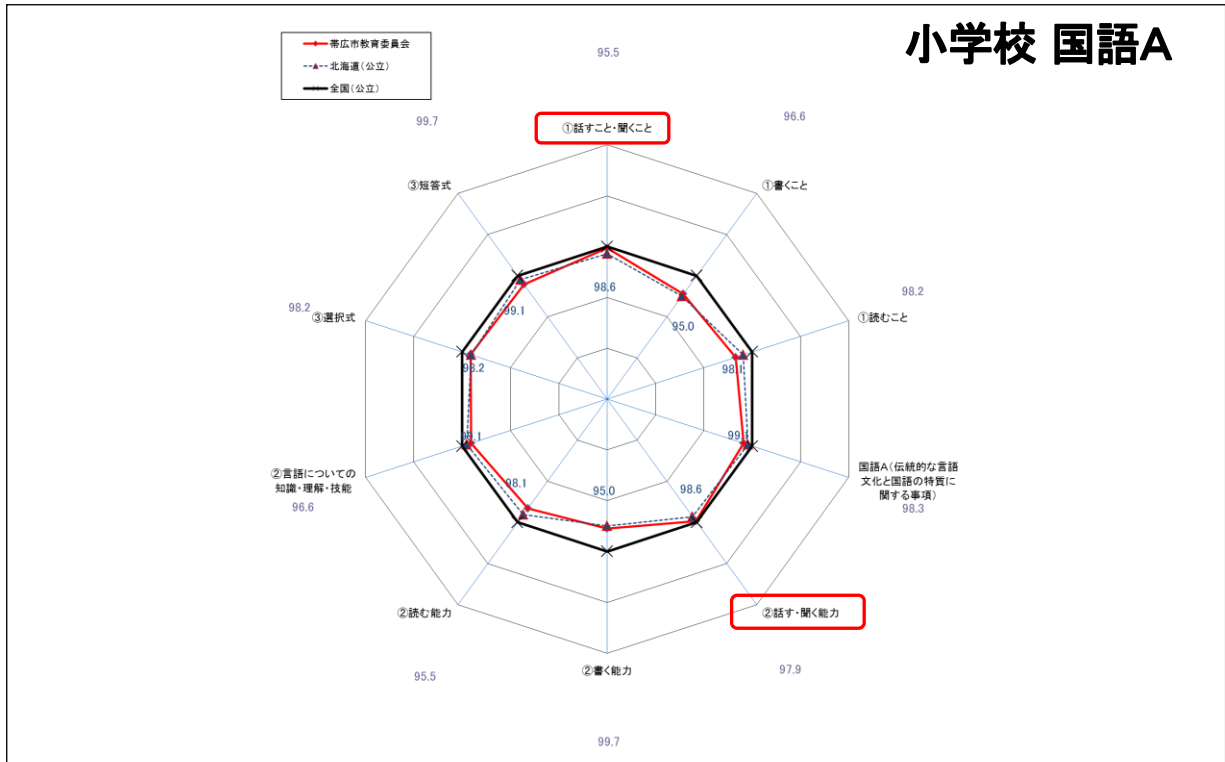


全国及び北海道の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合

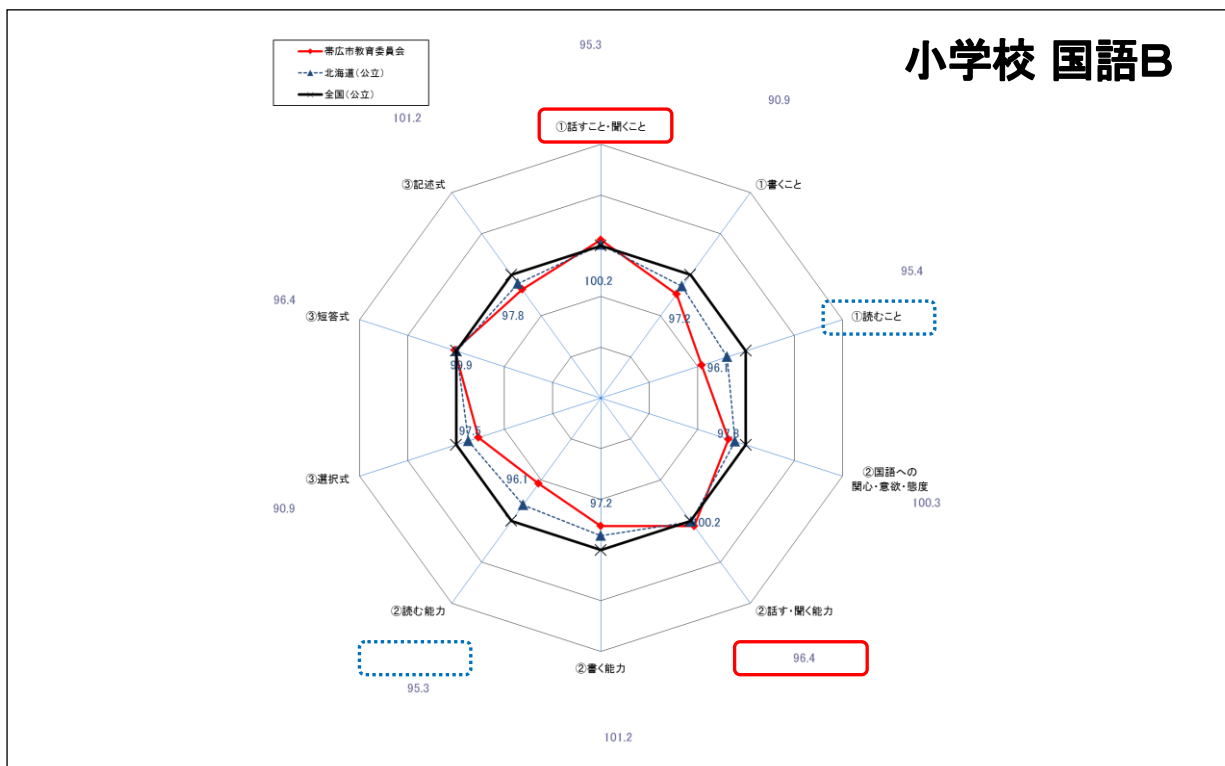


4 各領域の平均正答率（レーダーチャート図）

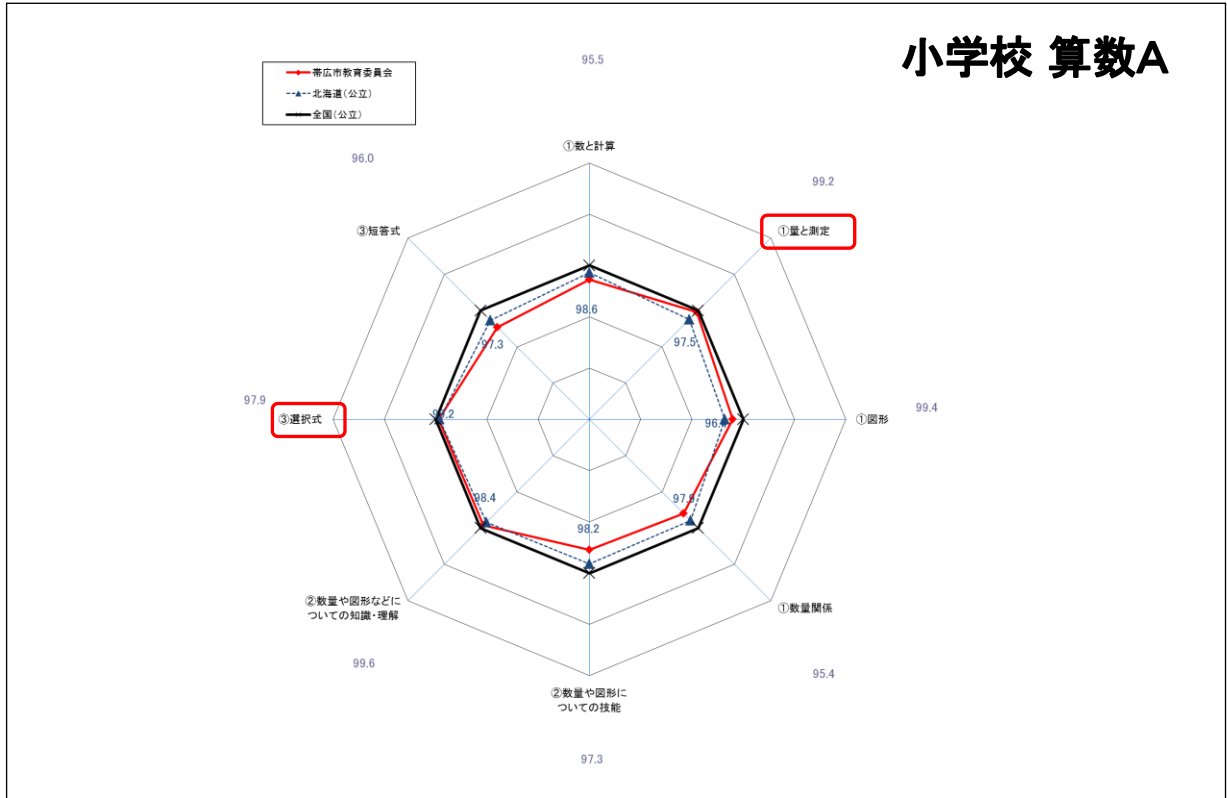
小学校国語Aでは、昨年度と同様に、4領域のうち「話すこと・聞くこと」、観点別では「話す・聞く能力」で全国との差が小さい。



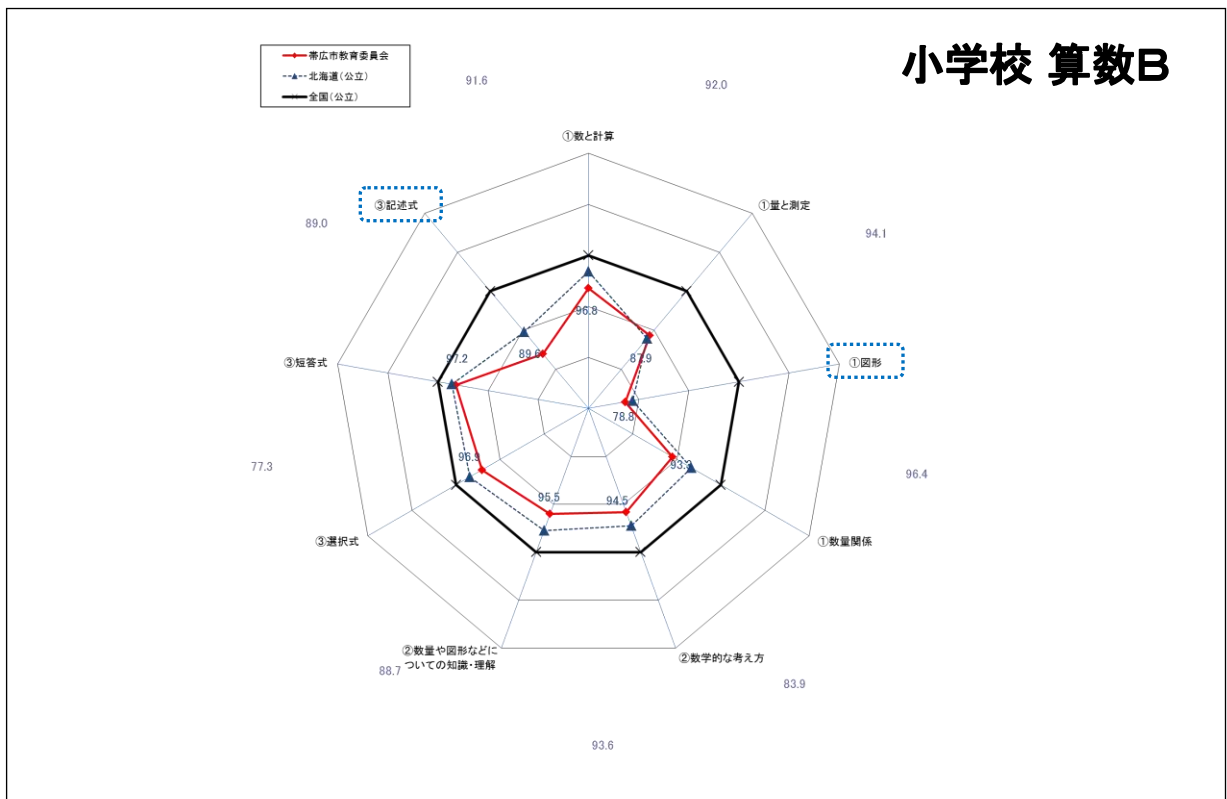
小学校国語Bでは、3領域のうち「話すこと・聞くこと」、観点別では、「話す・聞く能力」で全国平均を上回った。また、3領域のうち「読むこと」、観点別では「読む能力」で全国との差が大きい。



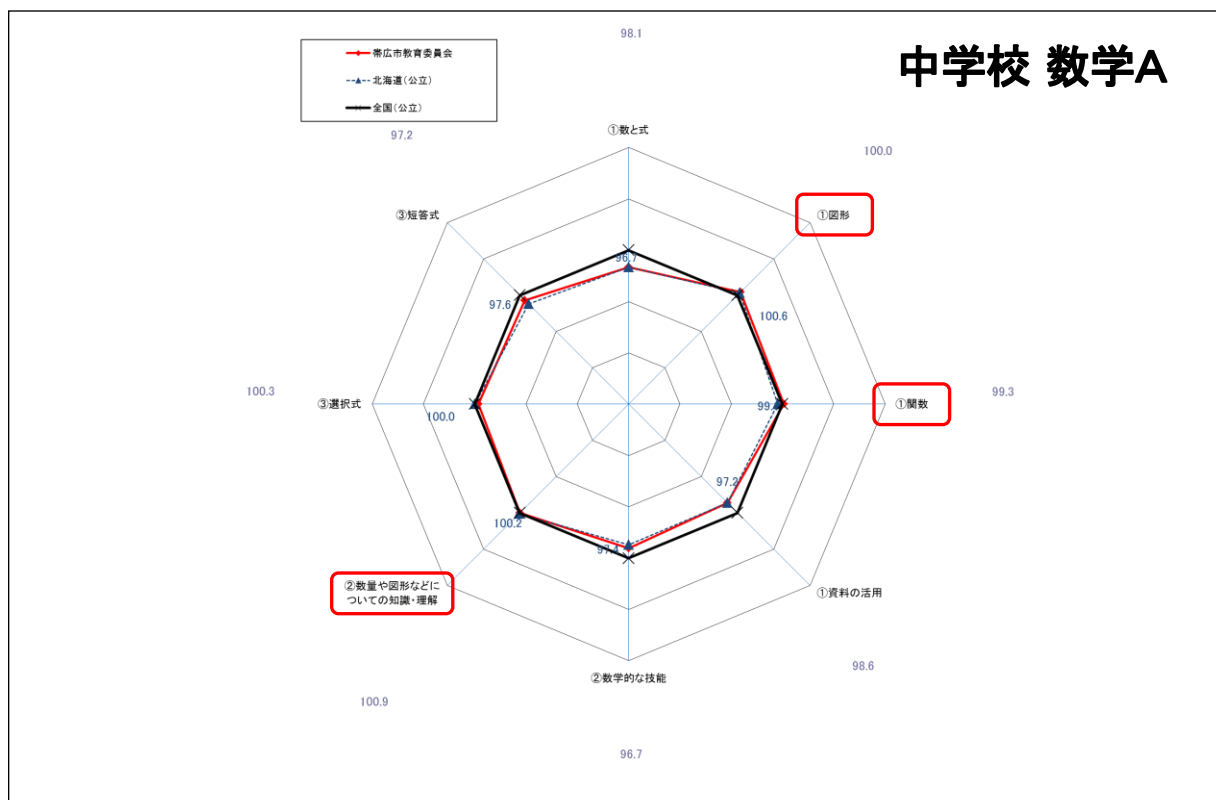
小学校算数Aでは、4領域のうち「量と測定」、問題形式別では「選択式」で、全国との差が小さい。



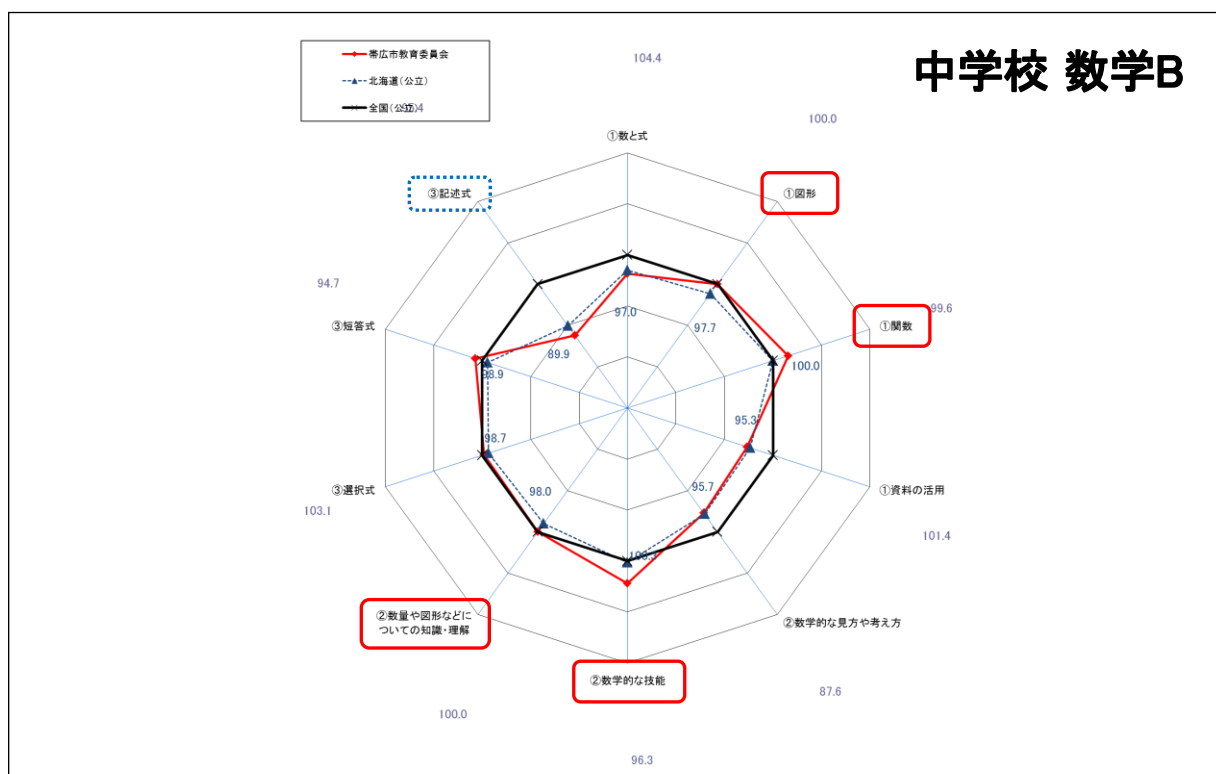
小学校算数Bでは、4領域のうち「図形」、問題形式別では「記述式」で、全国との差が最も大きい。



中学校数学Aでは、4領域のうち「図形」、「関数」の2領域において、全国平均を上回った。また、観点別では「数量や図形などについての知識・理解」で、全国平均と並んだ。



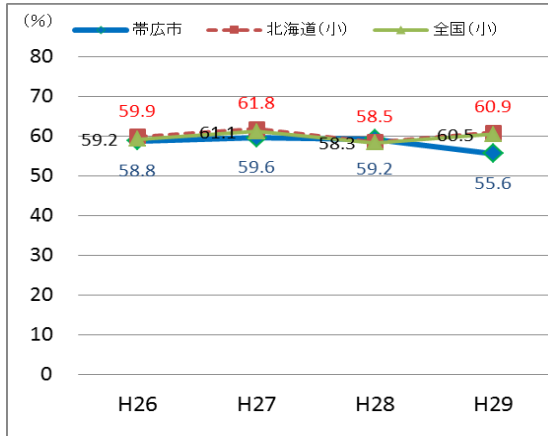
中学校数学Bでは、4領域のうち「関数」において全国平均を上回り、「図形」において全国平均と並んだ。観点別では「数学的な技能」において全国平均を上回り、「数量や図形などについての知識・理解」において全国平均と並んだ。また、問題形式では、昨年度と同様に「記述式」において、全国平均を大きく下回った。



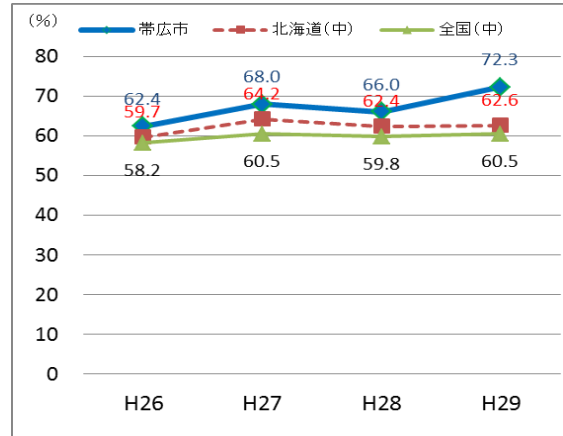
5 児童生徒の学習状況の概観（4年間の推移）について

① 国語の勉強が好きな児童生徒の割合

【小学校】

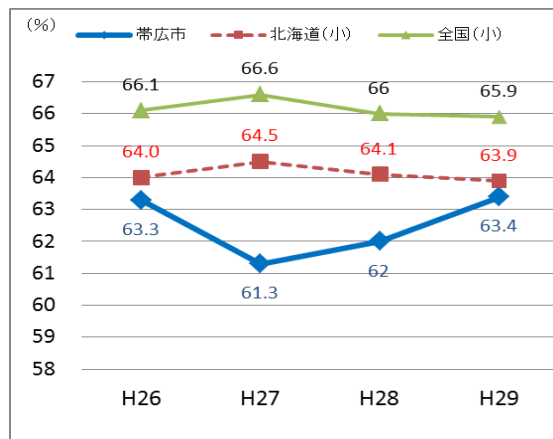


【中学校】

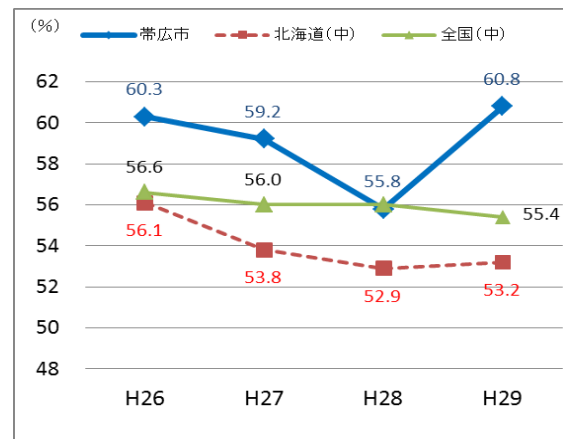


② 算数・数学の勉強が好きな児童生徒の割合

【小学校】

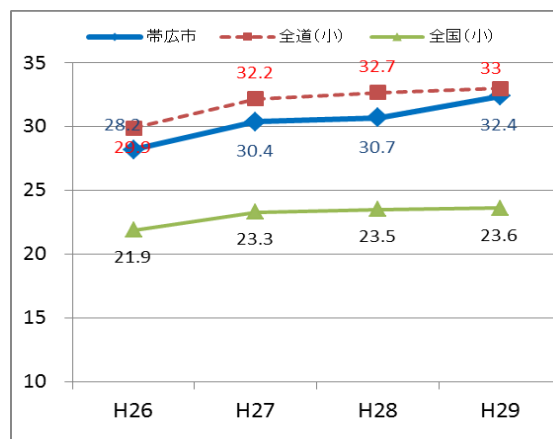


【中学校】

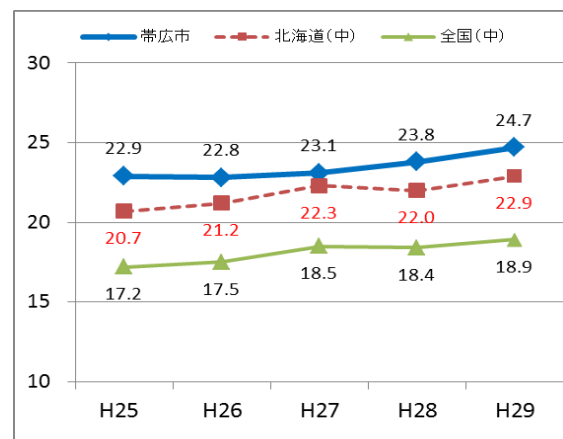


③ 家で授業の復習をする児童生徒の割合

【小学校】

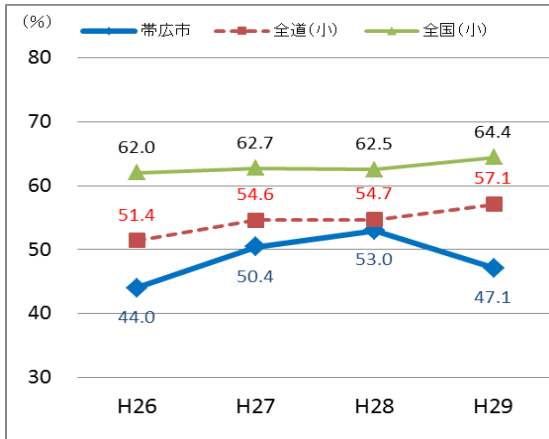


【中学校】

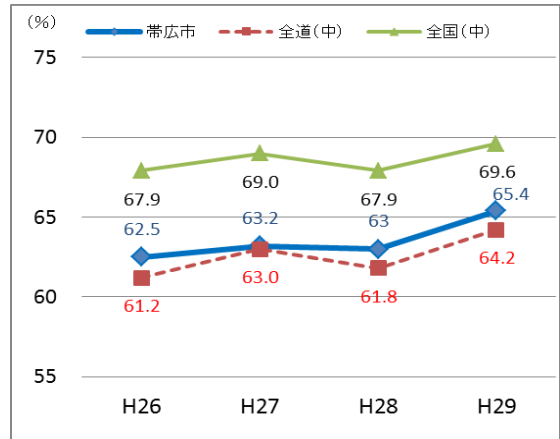


④ 普段1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合

【小学校】

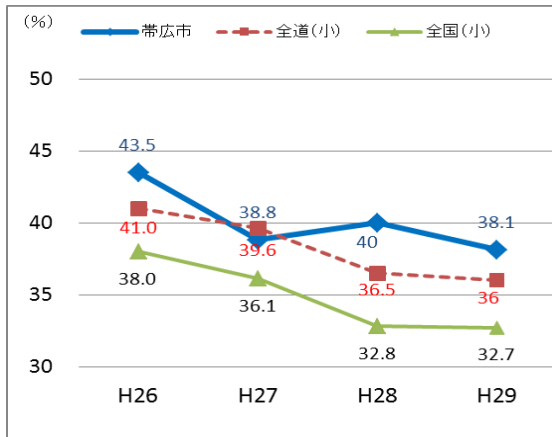


【中学校】

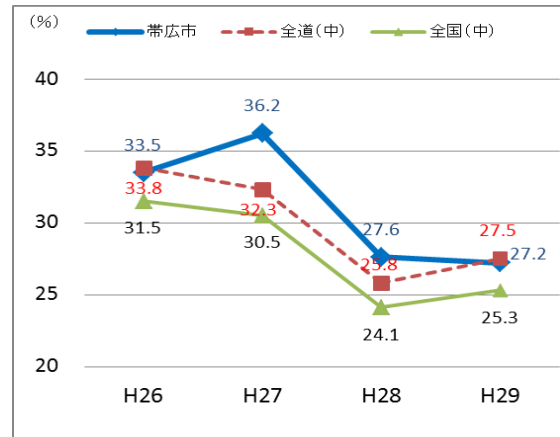


⑤ 普段1日当たり3時間以上、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたり（テレビゲーム除く）する児童生徒の割合

【小学校】

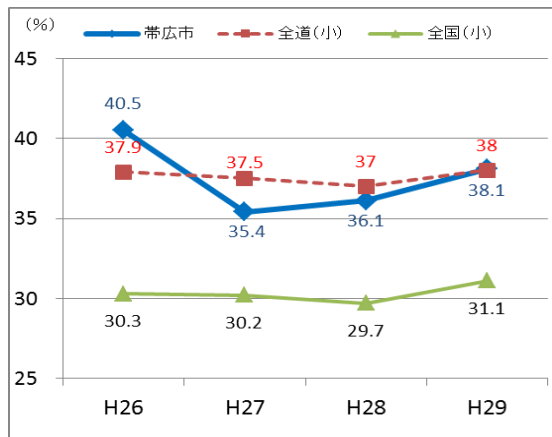


【中学校】

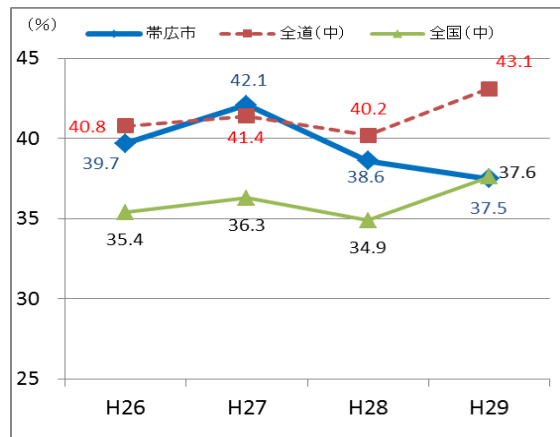


⑥ 普段1日当たり2時間以上、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム含む）をする児童生徒の割合

【小学校】



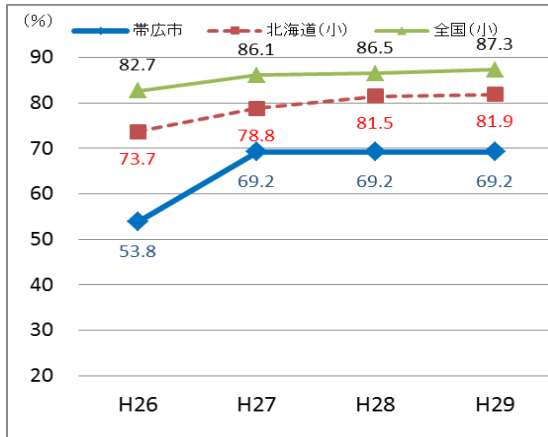
【中学校】



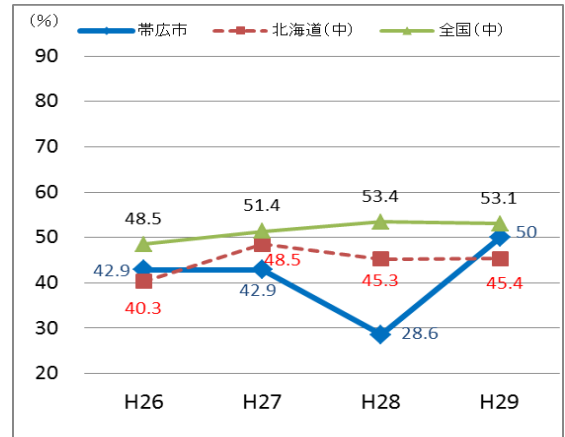
6 学校の学力向上の取組状況の概観（4年間の推移）について

① 国語の指導として、家庭学習の課題（宿題）を「よく与えた」学校の割合

【小学校】

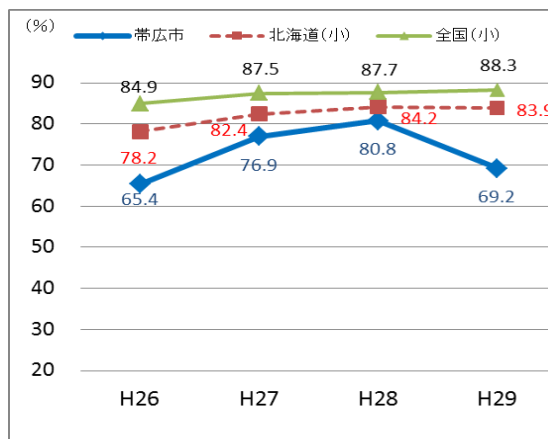


【中学校】

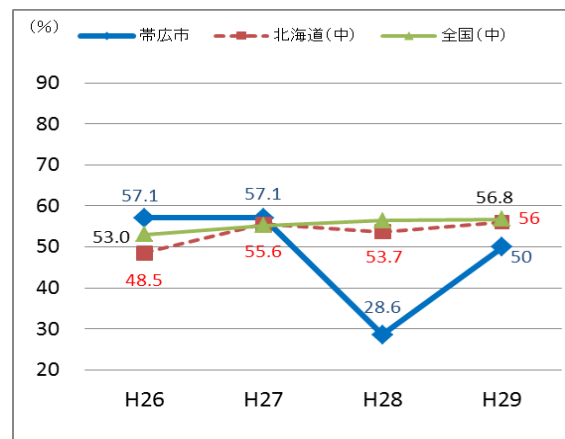


② 算数・数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を「よく与えた」学校の割合

【小学校】

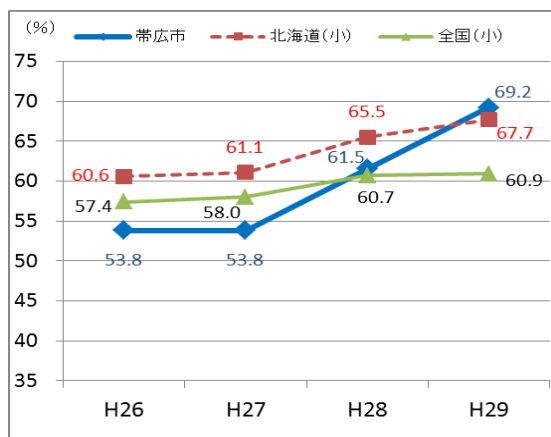


【中学校】

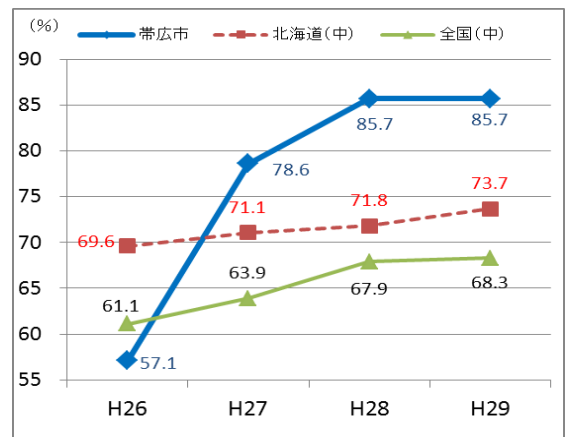


③ 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持の徹底を「よく行った」学校の割合

【小学校】



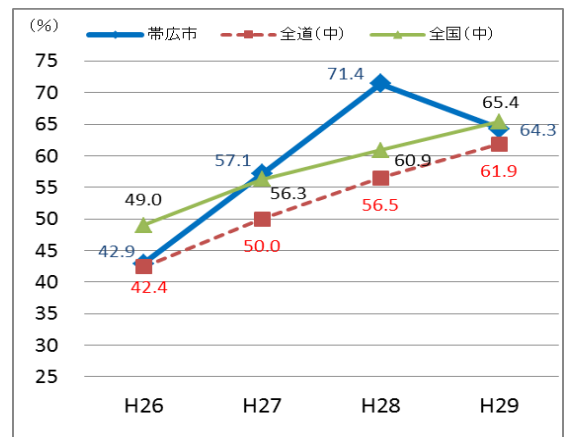
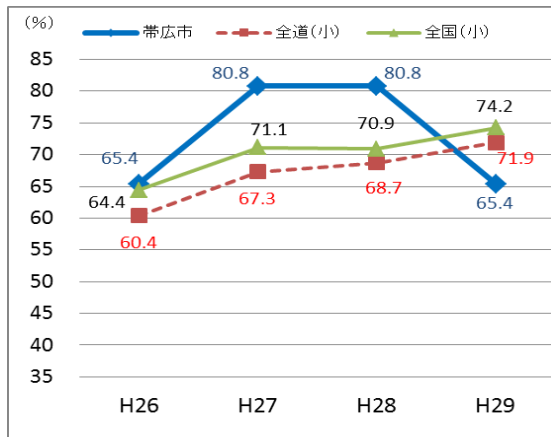
【中学校】



④ 授業の冒頭で目標を児童生徒に示す活動を計画的に「よく行った」学校の割合

【小学校】

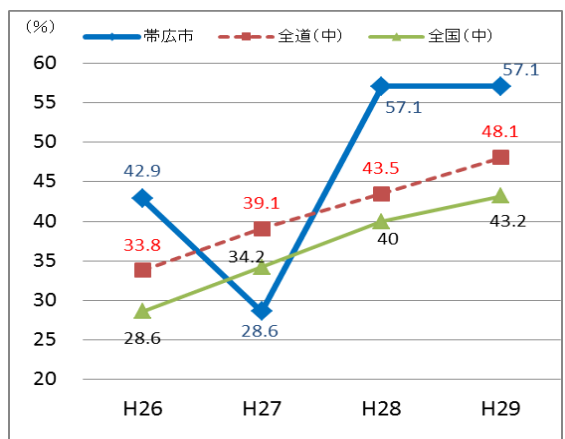
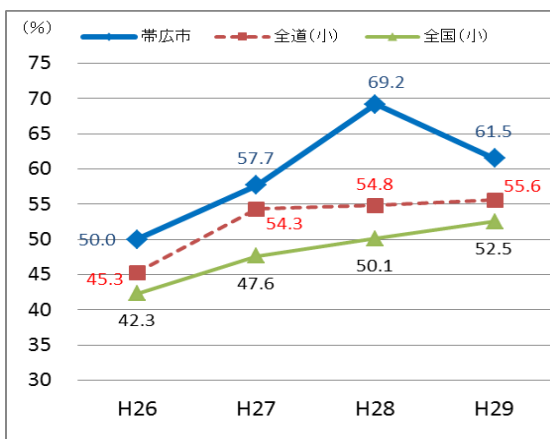
【中学校】



⑤ 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に「よく行った」学校の割合

【小学校】

【中学校】



7 考察

【児童生徒の学力の状況について】

小学校においては、4科目とも全国平均を下回り、3科目で全国平均との差がわずかに広がった。

中学校においても、小学校と同様に4科目とも全国平均を下回る結果となったが、昨年度と比較すると読解力や応用力を問う国語B、数学において全国平均との差が縮まり、改善の傾向が見られた。

各学校においては、学校改善プランに基づいた学力向上に係わる取組を継続して進めてきたが、今後もさらに、基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得のために、基本的な学習内容の重点的な指導や、繰り返し・反復指導等の充実を図るなど授業改善を進めることが必要であるとする。

【児童質問紙から】

小学校、中学校において、「普段1日当たり1時間以上勉強する」児童生徒の割合は、中学校において、昨年度と比較してわずかに改善傾向が見られたものの、依然として全国との差が大きく、課題と考える。

「1日当たり3時間以上テレビなどを見る」児童生徒の割合は、昨年度と比較し、小学校、中学校ともに割合は減少したが、全国よりも高い傾向が見られた。

「1日当たり2時間以上ゲームをする」児童生徒の割合は、昨年度と比較し、中学校において割合は減少したが、小学校においては割合が増加し、全国との差が広がった。

また、テレビを見たり、ゲームをする時間が「4時間以上」と答えた児童生徒の割合は、依然として全国よりも高い傾向が見られた。

このことから、引き続き学校として児童生徒に家庭での学習の進め方を指導するとともに、保護者と連携し、生活リズムチェックシートなどを活用しながら児童生徒の1日の生活リズムを整え、家庭での学習の習慣や有効な時間の使い方などを指導・定着させることが必要と考える。

【学校質問紙から】

小中学校ともに、授業の冒頭で目標を児童生徒に示す活動や、授業の最後に学習したことを振り返る活動を「よく行った」と答えた割合は、昨年度と比較すると学校、児童生徒ともに減少しているが、学校と児童の回答の差が縮まり、改善の傾向が見られた。

学習規律に関する指導については、小学校、中学校ともに、「よく行った」と回答する学校の割合が、全国平均を大幅に上回るなど改善が見られた。

今後も、各学校において本調査の結果を学校全体で共有し、組織として児童生徒の学力の向上と生活習慣の改善に取り組んで行くことが大切である。

8 改善の方策

(1) 日常の授業改善に努める。

- ① 授業時間の導入段階に目標（課題・めあて）を提示し、児童生徒に課題意識をもたせるとともに、授業時間の終末段階では今日学習したことを確認するまとめをする。
- ② 発問を精選する。

- ③ 学習量の確保や定着・まとめの時間をしっかりと確保する（タイムマネジメント）。
 - ④ その学年で身に付けなければならない学力を確実に身に付けさせる指導に努める。
 - ⑤ 習熟の程度に応じた指導、少人数指導など、指導方法の工夫・改善に努める。
 - ⑥ 基礎的・基本的な学習内容の重点的な指導や、繰り返し・反復指導等の充実を図る。
- (2) 各学校において学習規律を設定し各教室に掲示するなど、学校全体で組織として統一した取組を徹底する。
- (3) 家庭学習の時間の確保と学習習慣の定着のため、より一層家庭と情報や実態を共有し、連携を強化する。

9 おわりに

学力や学習状況については、これまでの取組の成果が徐々に表れているところもありますが、まだまだ改善が必要です。各学校においては、それぞれの取組を徹底し、継続して取り組むことが、学力や学習状況を向上させる一番の近道であると考えています。

学校や教育委員会は各年度の結果を受けて改善方策を再構築できるものの、個々の児童生徒にとっては一年一年が、かけがえのない時間であることを胸に刻み、今後も学力や学習状況を向上させる具体的な取組を進めてまいります。

また、それらの情報は、帯広市のホームページ（教育行政“学力向上の取組”）において、適宜、公表・発信してまいります。

平成30年3月 帯広市教育委員会